

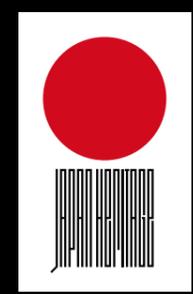


米作り、二千年にわたる大地の記憶

シリーズ日本遺産 ①

菊池川流域「今昔『水稻』物語」

問い合わせ先
生涯学習課
社会教育係
☎ 0968 (25) 7232



条里制で区画されたほ場（玉名市）



鞠智城跡



チブサン古墳



江田船山古墳

Japan Heritage

4月に認定を受けた菊池市・山鹿市・玉名市・和水町で構成される菊池川流域の日本遺産。今月から4市町合同企画として、そのストーリーや構成文化財を毎月紹介いたします。

詳細ストーリー①

菊池川流域の米作りの曙

全国的に米作りが行われるようになった弥生時代。熊本県北部の菊池川流域では、水を引きやすい川沿いの平坦な土地で米作りを始めました。その後、鉄製農具を利用して生産性を高め、米作りが盛んな土地となっ ていきます。

米の生産量が上がると生活も豊かになり、豪華な副葬品が出土した「江田船山古墳」や絵画などの装飾が施された「チブサン古墳」など、多彩な葬送文化の誕生につながりました。やがて高い技術力に支えられた菊池川流域の米作りの文化が幕を開けることとなります。

2千年にわたる開墾の歴史

菊池川流域は、阿蘇外輪山の菊池渓谷を源とする清らかでミネラル豊富な水に恵まれた地域です。約2千年前、最初は小さな水田から米作りが始まりました。8世紀頃には灌漑技術が導入され、大規模な土地区画制度である「条里制」が全国各地に敷かれると、菊池川流域の平地では1区画1畝の水田が整備されます。大和朝廷はこの土地の高台に古代山城「鞠智城」を築き、米倉を建てて軍事補給基地としての機能を持たせました。条里制の地割は、時代が移り変わる中でも大きな改良を必要とせず、鞠智城跡を訪れると、千年以上前に基盤状に区画された田園風景を一望できます。

作文

社会を明るくする運動

小学生の部優秀作文
人とのつながり

花房小学校5年 福島陽斗さん



一人ですす番をしていた時に、家をつきあげるような地しんが起きました。とっさに家を飛び出しました。おさまったけど、家に入るのはこわく、外は寒くてまっ暗でした。家族の帰りは少し時間がかかりそうでした。そのとき思いついたのは、いつもやさしくしてくれるとなりのおじさんの家でした。走ってむかい、わけを話すと、やさしく家に入れてくれました。

「寒かったらう。こわかったらう。よう来た、よう来た。」

とコタツに入れてくれたおじさん。「大じょうぶねえ。」

と心配しながら飲み物を出してくれました。おばさん。こわかった気持ちごと、れ、ホッとしました。母が来て、帰る時に、

「こういう時はいつでも来ななたいて。」

と言ってくれました。その時ぼくは、ここに来て良かったと思えました。そして、家族だけでなく地いきの方々にも守られているのだと改めて実感しました。

他の方々も登下校中に、

「おはよう。いつてらっしゃい。」

「おかえり。」

など、あたたかく声をかけてくれます。あいさつを返すと気持ちがいいです。話しかけると、色々な事を聞いてくれます。

「がんばったね。すごいね。」

といってくれる時は、とてもうれしく、元氣になります。家族だけでなく、地いきの方々がいるから、安心して生活ができているのだと思います。

学校でもそうです。友達がいるからこそ楽しくなること、がんばれることがたくさんあります。教室に友達がそろると、安心してすごせます。

このようなことを考えると、周りにたくさんの人がいるからこそ明るく、楽しく生きていけるのだと思いました。

しかし、人からいじめや差別をされては心にもやみが出てしまします。そのようなことが犯さいや自殺につながってしまふのだと思います。ぼくは、みんなが人生楽しんで

くなるような世の中になればいいなあと思っています。そのために今できることをしていきたいです。

花房小にある「花房っ子人權スローガン」は、頭文字をとって

- ④ はっきりものが言え
- ⑤ なかよく明るく子どもたちの学校
- ⑥ ぶつかり合い
- ⑦ ささえ合う
- ⑧ 強くやさしい子どもたちの学校
- ⑨ こんな学校みんなできよう

です。ぼくは、この「花房っ子人權スローガン」をもとに行動していきたいです。地いきの方々がぼくの一日を明るくしてくれているように、あいさつや声かけをすること。みんなと声をかけ合い、助け合うこと。こまっている人がいたら知らないふりをせず、話を聞いてあげること。また、だれにでも思いやりを持って行動していくことを目指したいです。自分だけでなく周りの人が幸せになるようにしていきたいと思います。